

青少年育成センターだより

第32号 平成29年12月



うまさうな 雪がふうはり ふわりかな (小林一茶)



つめたい雪を「うまさうな」と表現した小林一茶らしい句ですね。

寒い冬も一茶のように思うと少しは過ごしやすく感じることができるかもしれません。これから年末・新年を迎え、忙しくなることでしょう。無理をせず、健康な状態で新年を迎えるようにしましょう。また、これからインフルエンザが流行する季節になります。罹らないように注意しましょう。予防注射も効果があるのですが、大切なこ

とは栄養をしっかり摂り、適度な運動を心がけることです。どうぞ、ご自愛ください。

待つことの大切さ

物事には必ず原因と結果があります。「朝遅く起きると遅刻する」、「忘れ物をしたら先生に注意される」、「勉強をしなかったら成績が下がる」というように・・・。

子どもが失敗をしそうで、親がいつも声かけをしていたり、手伝いをするようにしていればどうでしょうか。例えば、子どもを起こす習慣がある家庭であれば、遅刻をするという失敗は少ないでしょう。しかし、親が起こすことができなく、子どもが遅刻した場合は、どうでしょう。子どもは「なぜ起こさなかったの」と親を責めるようになります。遅刻をした原因は、子ども自身にあるのに親を責め、責任は自分にあることに気づかない人間になります。親の子どもへ良かれと思ってやった手出しで、そんな子に育ってしまうのです。

ある、本にこのようなことが記載されていました。考えてみてください。

子育てにおいても、まずは子どもが自分でやってみる。それがうまくいかなくても失敗ではありません。経験です。そこから一緒に考えていくことに寄り添うことが、人を育てる大事なポイントだと思います。見守る力、それは耐える、我慢する力です。あれこれ口を出したいけれども、ぐっとこらえて「このままだと転ぶよ、転ぶよね、はい、転んだ!」という過程を見守り続けることはとてもエネルギーがいることです。上からの指示、トップダウンでやってしまうほうが楽かもしれませんが、新しい可能性は生まれませんし、発展していきません。経験させて考える。そのために時間を待ってあげる。これはとても力量がいることです。私もたくさん転んで、痛い思いをして、学んできたからこそ、それはNGではなくて、自分を築いたかけがえのない経験になっていると思うのです・・・

(深谷志帆 日本視覚障害者コーチ協会代表・視覚障害者。4人の子を持つシングルマザー)

子どもが乳児の時のように何もできない時には、しっかり抱っこしてやり、ありったけの支援をしてやるのが大切ですが、ある時期から子どものできることは時間がかかってよいので自分でさせてみることです。そのことにより、子どもの生活力や自主性、主体性等の生きる力が身につくのです。

子どもにかぎらず草花でも農作物でも、何でも育てることが上手な人は、待つことが上手な人と言われます。待っていることに喜びや楽しみを感じていられる大人でありたいと思います。

もう少しで、年が変わります。先日、テレビで「来年は成年です。**ワン**ダフルな年になるといいですね」と洒落を言っていました。「平成30年が皆さんにとって、日本にとって、世界にとって良い年でありますよう」と願っています。

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター（23-3013）